

事例12

茨城県水戸市内原中央公民館・水戸市立内原中学校

地域協働学校

連携の経緯



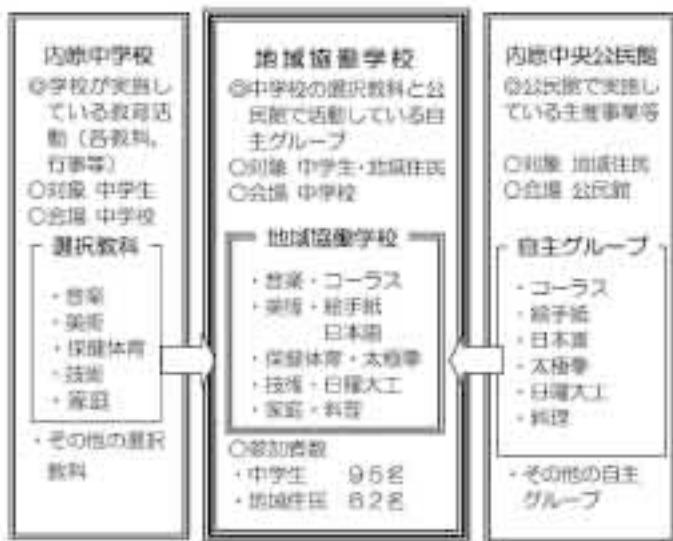
内原中学校では、「選択履修幅の拡大」「開かれた学校づくりの推進」を目的とし、内原中央公民館の生涯学習講座との連携を計画した。また、公民館でも、学校施設を生涯学習の拠点として生かす必要性を感じていた。

そこで、平成12年に公民館は「地域協働学校推進協議会」とその実施のための「実施検討委員会」を立ち上げ、中学校と実施内容や教育課程上の位置づけなどについて協議を重ねた。そして、平成13年、公民館講座と学校の授業などを一体化させ、地域住民と中学生が一緒に学習する「地域協働学校」が開設された。

連携事業の概要

この事業は、内原中学校の3年生の選択教科と内原中央公民館で活動する自主活動グループの活動を一体化し、中学生は教育課程に位置づけられた授業として、住民は公民館の主催事業として、一つの事業（授業）と一緒に参加するものとなっている。このしくみを「地域協働学校」と呼ぶ。そこでは学校教員の他、専門的な知識や技術をもった住民も指導者となり、受講者は生徒と住民である。

授業は主として音楽、美術、技術、家庭など実技科目が中心となっており、住民が中学生とお互いに学び会うしくみができている。こうした学習の成果は、公民館の「内原地区美術展」や「内原地区文化祭」で展示・発表されている。



地域協働学校の中学校と公民館の取り組みイメージ

連携の形態

本事業は、公民館と中学校がそれぞれ役割分担をし、「共催」という連携の形態をとっている。この事業を推進するために、公民館、学校、各自主活動グループなどが、年2回（5月と12月）地域協働学校協議会を開催し、年間活動報告、改善点、次年度開設講座の検討、グループ代表者との交渉、学校との調整などを行っている。

また、公民館の社会教育主事と学校の教務主任が年度当初に打合せを行い、年間活動計画を作成している。実施にあたって、学校は、選択教科の内容を充実させるために、生徒や教員の要望を取り入れるなどの工夫をしている。

公民館は、各自主活動グループの代表などとの連絡窓口となり、実施日時、学習内容、学校の要望などの調整を行っている。

茨城県水戸市内原中央公民館

【施設データ】

所在地	茨城県水戸市内原町1395-6
電話	028-259-4044
設置年	昭和49年
対象地域人口	約15,207人
延床面積	1,628m ²
設置状況	単独
URL	http://www.city.mito.ibaraki.jp

【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長（専任1）
	・公民館職員（専任3） （内 社会教育主事1）
協議会等	・嘱託員（4） （内 社会教育主事1）
予算額	公民館運営審議会 管理運営経費： 43,698,000円

連携の留意点

- 公民館は、事業を推進するための組織である「地域協働学校推進協議会」とその具体的な展開のための「実施検討委員会」を設置するなど、組織的に活動を展開することができる機動的な組織をつくる。
- 実際の企画段階から、公民館社会教育主事と教務主任が互いの教育目的をすり合わせたうえで、具体的な事業計画を立案し、それぞれの年間活動計画に位置づける。
- 一体化する事業（授業）は、実技科目を中心とし、一般住民にも興味関心の高い内容とする。
- 学習した成果は、地域の美術展や文化祭で活用し、生徒の学習成果も広く住民に周知する。
- 事業の年間計画を作成するにあたり、学習プログラムには生徒の要望を取り入れるなど、社会教育の手法を生かし、生徒の自主性、自発性を促す。



成 果

<公民館として>

- 公民館が学校と連携することで、施設・設備や教員の専門性など学校の資源を社会教育に生かすことができた。
- 地域の指導者は、学校と連携し中学生に指導する経験によって活動意欲が喚起された。同時に、スキルや技術の向上にも努め、団体活動の活性化に貢献できている。また、学校と係わることを通じて、自らが地域の教育力であることに気づき、子どもの教育に関心が高まった。
- 団体が様々な社会貢献に係わることを通じて、学習成果を活用した社会参加、社会貢献活動に関心が高まり、活動がまちづくりに向かうようになった。

<学校として>

- 本事業が「開かれた学校づくり」に向けての第一歩となり、学校の教育目標の実現にアプローチできた。
- 事業後の生徒の感想などには、「地域住民への挨拶」「地域への愛着」「地域への貢献」などの内容が多くみられ、地域の指導者の指導が、生徒の地域活動への参加意欲や学習意欲を引き出している。

課 題

- 一般的な地域住民の参加が、平日の午後（選択教科の時間）でも増えるような広報・PRを工夫したい。
- 公民館の自主グループと中学校の生徒が、同じ授業に参加して直接活動する「地域協働学校」を小学校などにも拡げていきたい。

